

# 「空港業務は世界つなぐ」

埼玉学園大、川口短大学生3人

## 魅力を就活生に報告

航空輸送における空港地上支援業務「グランドハンドリング」を知ってもらう催しが4日、東京都大田区の羽田空港で行われ、同業界に就職が内定している埼玉学園大、川口短大の学生3人が就活生に業界の魅力ややりがいをアドバイスした。  
(新井護)

空港グランドハンドリング協会(東京都千代田区)主催。就職活動中の学生と、ANAエアポートサービス、JALグランドサービス、スイスポーティブ、Kスカイ、エーजीピーの6社などが参加し、空港で働く、日々の仕事内容などを紹介した。  
川口市木曽呂の埼玉学園大は同協会賛助会員となり、実際に空港を訪れ、手信号で航



空機を誘導する「ランプハンドリング」の見学などを実施。学生の就職を後押ししている。すでに空港でインターンシップを行っているという埼玉学園大経営学部4年の池間佳希さん(22)は「仕事は1人でできず、チームワークが大事。とにかく何かをやってみ

る、そして『自分はこれをやりたい』と言葉に出すことが大事」と話す。

催しでは業界各社の仕事の紹介や、参加学生による話し合いや発表の場も設けられた。

同学部4年のピロゾ・シャフィナさん(22)は「人と接する時に目線や笑顔を意識し、思いを言葉にすることが大事。空港での仕事は小さい頃から憧れ。世界と世界をつなぐ懸け橋の役割」と笑顔を見せる。川口短大2年の長岡紗花さん(20)は「男性中心の職場かと思ったが、若い女性も活躍している。近くで見ると飛行機の大きさに圧倒される。たくさん情報を収集し、分析してほしい」と業界の魅力話を話した。

学生を指導した川口短大ビジネス実務学科の富吉光則准教授は「空港業務への意識を持つ学生に実際に現場を見てもらうことで可能性を広げ、志を後押ししたい」と話した。

学生に空港グランドハンドリング業務の魅力を話した(左から)埼玉学園大4年の池間佳希さん、ピロゾ・シャフィナさん、川口短大の長岡紗花さん。4日午後、羽田空港。